

修道中学校

入試科目	算数	国語	理科	社会	総合
試験時間	50分	50分	40分	40分	
配点	125点	125点	100点	100点	450点
受験者平均点	74.6点	85点	61.6点	51.8点	273点

算 数

1	計算と小問集合	(1)①整数の四則混合計算	②小数、分数の四則混合計算	③工夫をする小数の計算	④□を求める計算	⑤□を求める計算
		(2) 差集め算	(3) 角度	(4) 平均	(5) 体積(斜め切断された直方体)	(6) 時計計算
2	小問集合	(1)速さ(歩幅と歩数)	(2) 場合の数(サイコロ2回投げ)	(3) 面積の差	(4) 条件整理と推理	
3	速さ	小問数3				
4	平面図形ー面積比ー	小問数3				
5	ピラミッド計算	小問数3				

今年度の受験者平均点は、74.6点、およそ59.7%となっており、標準偏差が22.0となっています。昨年よりも若干ばらつきは少なかったようです。難問の出題はなく、ほとんどの問題は基本的な知識・技術があれば正解できる問題でした。100点以上の受験生が135名(15.9%)いたのもうなずけます。もしかしたら満点も何人かはいたかもしれません。

問題全体をみると、**1**、**2**ともに小問集合からの出題であり、2020年の入試から同じ構成です。**1**の一行問題は、基礎的な問題になっており、迅速で正確な計算力・処理力を測りたいということでしょう。とは

いえ(2)(6)は少々考えにくいところもあり、差がついたかもしれません。**2**は**1**に比べるとやや難しめで、読解力・発想力が問われる内容になっています。正答率が低い問題もあったと思われます。

1(1)で計算問題が5問出題されています。すごく簡単な計算から、工夫を要する問題、□を求める問題と難易度もバラエティーに富んでいます。(1)③は「31.4」「3.14×8」「0.314×30」を3.14の倍数にして考える工夫が必要な問題です。全体的に正答率はかなり高かったと思われます。(2)は池の周りに木を2m間隔、3m間隔でそれぞれ植えたときの木の本数の差についての問題です。様々な解き方のある有

名な問題ですが正答率は5割に届きませんでした。(6)は時計算の長針と短針が重なる時間を求める問題で、ほとんどの受験生が一度は経験している問題なのですが、8時20分という中途半端な時刻からの時間を考えるところで間違えてしまった人が多かったようです。やはり正答率は5割に届いていません。(3)の角度、(4)の平均、(5)の切断の問題は典型問題で引っかかりそうなところもなかったので正答率は高かったでしょう。

②も小問集合です。(1)は歩幅と歩数の問題です。同じ道のりを進むときの歩数の比と歩幅の比が逆比になっていることに注目できればあとは旅人算の問題です。ただあまり馴染みのない問題であるので少し難しかったかもしれません。(2)はサイコロを2回投げる場合の数の問題ですが、二等辺三角形ができているかどうかの確認が少々ややこしいので時間がかかる問題だったと思います。(3)は2つの部分の面積の差を考える問題です。アとイの差を、ア+ウとイ+ウの差で考える必要があります。多くの受験生が知っている問題のはずですが、正答率は低かったようです。(4)は条件整理と推理の問題ですが、わかっている情報をきちんと書き込んでいけば問題はなかったと思います。正答率は高かったでしょう。

③は速さの問題です。(1)は道のり÷速さで求める速さの基本問題でした。(2)(3)は途中で忘れ物に気づいて引き返す問題です。(2)は文章をきちんと読んだ上で、5分で360m進む速さと18分で2160m進む速さの比を考えればいいことに気づけたかどうかです。(3)は2倍の速さで戻るという条件から、家を出てから10.5分で再び家に戻ってこなければならないということに落とし込めたかどうかです。(3)は

おそらく正答率は高くなかったと思います。(2)の出来が合否を分けたかもしれません。

④は面積比の問題です。(1)は相似比から面積比を出す問題なので難しくありません。(2)は「三角形の底辺の比×高さの比＝面積の比」が理解できているかどうかを確認してくれる問題です。(3)(4)はPQとSRの延長の交点をV、PUとSTの延長の交点をWとしたときの平行四边形PVSWを考えられたかどうかポイントです。延長すれば正三角形が2つ作られるという事に気づけたかどうか、少々難易度の高い問題といえるでしょう。似たような図形問題が過去に出題されています。しっかりと過去問演習を積んできた受験生は気付きやすかったと思います。

⑤はピラミッド計算です。(1)は順番に計算していくだけなので、正答率は高かったでしょう。(2)(3)は最上段左からa、b、c、d、eとすると最下段Aが $a+4\times b+6\times c+4\times d+e$ と表されるところがポイントです。これを使えば、cを5に、b、dを3、4に、a、eを1、2にすればいいことがわかります。(3)は少し時間がかかってしまう問題かもしれません。(2)の出来が合否を分けたかもしれません。

今年の問題も昨年同様の難易度といえるでしょう。受験生が手も足も出ないような出題はありません。「分かっているけど失点しやすい問題」が多いので、受験生の力がはっきり表れる入試問題でした。

合格の目安となる受験者平均点(74.6点)に到達するためには、①や、各大問の(1)(2)でしっかり得点することが重要です。そのうえで、②のような少し難しい問題でも正答させるだけの力をつけるために、普段から少し難しい問題にコツコツ取り組んでいきましょう。

国語

- 一 漢字の読みと書き取り (小問数 10)
- 二 池谷裕二 『夢を叶えるために脳はある』 (説明文 約 4200 字 小問数 8 うち記述 2 問)
- 三 原田ひ香 『古本食堂 新装開店』 (物語文 約 5000 字 小問数 8 うち記述 2 問)

漢字・語句、説明文、物語文の大問 3 題構成に昨年から変化はありません。大問 1 では、昨年度と同様に、ことわざや慣用句などの語句の問題が出題されず、漢字の読みと書き取りのみとなりました。修道中学校の国語といえば記述問題が大半を占めるのが特徴的でしたが、今年度は記述問題が 4 問しか出題されませんでした。ただし、記述問題の出題数はここ数年をみると、減少傾向にあります。本年度の違いとして顕著なのは、昨年度と比べて大幅に増えた素材文の文字数です。しかし、文章が長くはなったものの設問の数も少し減ったことにより、国語の受験対策をしっかりしていた受験生にとっては、時間に余裕を持って各設問に対応できたと考えられます。その結果、受験者平均点は 85 点と昨年度の 55.7 点と比べて大幅に上がり、全体的に問題の難易度は易しくなりました。

大問 1 は漢字の読みと書き取りの問題です。全 10 問すべてが基本的な漢字から出題されていました。読みの問題では「警笛」、書きの問題では「絶やさ(ない)」と「専門」の正答率が低かったそうです。「絶やす」は送り仮名を誤る子どもが、そして「専門」は「専」に点を打ったり、「門」を「問」にしたりする子どもがよくいます。その誤解や癖が出てしまったのでしょう。中学入試での漢字の出題は、原則、小学校 6 年間で学習する 1026 字の「教育漢字」から出題されます。漢字の出題では、単に漢字の力を見る問題ではなく、語彙力を試すという側面もあります。入学試験のあとに学校が公表した資料「中学入試・概要」でも、「『書籍』『新聞』『ニュース』などに日常的に触れることで未来のリーダーにふさわしい語彙力を身につけてください」と、受験生への要望が書かれています。よって、日ごろから意識して語彙力をつける習慣を持つことが受験生に求められています。

大問 2 は、池谷裕二『夢を叶えるために脳はある』より、「効果的な学習法」について、「学習に取り組む姿勢として重要なのは分かったつもりにならないこと」を主題とした文章を読解させる問題でした。書き抜き問題が 2 問出題されましたが、誤字や脱字をする受験生や、指定字数を守れていない受験生、また不自然な文末表現で解答する受験生が散見されたそうです。問題の指示を正確に守る習慣を身につけておかなければ、防げる失点も防げなくなります。記述問題は 2 問出題され、1 つは筆者が抽象的にまとめている部分を、具体的に書き換える問題で、もう 1 つは本文全体の主旨を簡潔に要約する問題となっていました。解答の方向性がぶれたり、主旨を読み違えたりする受験生は少なかったようですが、頭で理解していることを説明するための語彙力や表現力に課題が残る受験生が多く見られたとのことです。

大問 3 は、原田ひ香『古本食堂 新装開店』より、前半は「七十代という老境を迎える中で自分の恋心に素直に向き合おうと決意する女性、鷹島珊瑚」の視点から描かれ、後半は「若さゆえに自分の希望を前面に押し出した結果、相手の気持ちを軽んじていたことに気づかされる女性、鷹島美希喜(珊瑚の親戚)」の視点から描かれていました。途中から視点人物が変化する文章となっていました。ほとんどの受験生が内容を理解できていたようです。語彙力や本文構造、また視点人物の変化や登場人物の心情を説明する力を問う記号選択問題はどれも受験生の正答率が高く、文章の内容が理解できていれば迷わず答えを選べる比較的易しい問題となっていました。記述問題は 2 問出題され、どちらも物語文中の因果関係や人間関係を理解した上で、登場人物の心情を説明する力を問う問題でしたが、場面の理解が不十分である解答や、文章中の適切な箇所に注目できてい

ない解答が見られたそうです。

修道中学校の国語で合格点を取るためには、基本的な語彙力が不可欠です。学校側が公表する資料「中学入試 概要」においても、「大人になって活躍するにふさわしい言葉の力を日ごろから意識して身につけてください」と書かれています。日常的に自分が使える言葉を増やす習慣を持ちましょう。また、昨年度と比べて記述問題の数が減少したとはいえ、記述問題が主体となっている出題傾向に

変化はありません。同じく「中学入試 概要」においては、学校側が受験生に「『要約する習慣』をつけてください」と呼びかけています。日ごろの国語の学習において、作問者が求める答えを、適切な語句を用いて表現する練習を積み重ねておきましょう。なお、試験本番においては、時間配分に気をつけながら、漢字の読み・書き問題や記号選択問題、そして書き抜き問題には必ず答え、それらの問題を解いた後の残りの時間を使って記述問題にあたるようにしましょう。しかし、どの問題も丁寧に答えることを忘れないでください。

理 科

- | | |
|---|--|
| 1 | 地学分野から、月の満ち欠けと恒星の実視等級と絶対等級 に関する問題 小問数 9 |
| 2 | 地学分野から、サクラの開花前線の動きについての考察 に関する問題 小問数 12 |
| 3 | 物理分野から、いろいろな電気回路 に関する問題 小問数 5 |
| 4 | 物理分野から、重さを考えるてこのつり合い に関する問題 小問数 3 |
| 5 | 化学分野から、中和により発生する熱の量からグラフを作図する問題と混ぜ合わせた水溶液から取り出せる固体の量の計算問題 小問数 11 |

例年の大問 4 題から 5 題になりましたが、小問数としては昨年の 41 問とほぼ同じ 40 問でした。物理分野から電気回路とてこのつり合いを出題するために大問を増やしたようです。またそのため、物理分野の深掘り問題はなく、受験生にとっては取り組みやすくなっていました。

1 問 1～問 3 は与謝蕪村の俳句からアブラナの季節、句が表す時刻、その時の月の形を問う問題でした。いずれも難関中を目指して学習してきた受験生にとっては基本の問題になっているので、多くの受験生が得点できたと思われます。問 4 は百人一首の歌から、日の出直前に見えた月の形を考える問題でした。少し難易度は上がりますが、日の出直前に太陽は東（南を向いて左手）にあることを考えれば正答に気づけたはずです。問 5 は月から見た地球の見え方、月における昼夜についての問題でした。このレベルの内容を暗記で乗り切ることが難しく、月が満ち欠

ける理由や、月の公転・自転をしっかりと理解していないと答えられないようになっている良問です。問 6 は恒星の実視等級と絶対等級についての問題で、シリウスとベテルギウスが同じ距離にあった場合の明るさ（絶対等級）を比較する問題でした。距離による明るさの変化を丁寧に比較、計算する必要があります。

2 問 1 は受験生としては比較のお馴染みの光合成の確認実験からの空欄補充問題でした。選択問題だったので解きやすい問題になっていました。問 2 は「蒸散」を問う語句問題で漢字指定になっています。後述の大問 3 の問 1 と合わせて語句問題は 2 問で、いずれも漢字指定です。「蒸」の字はミスも多い漢字なので、同校へ向けた学習は漢字を合わせて覚えるように心がけましょう。問 4・問 5 はサクラの開花前線（桜前線）に関する問題でした。本来桜前線は南から北上しますが、これが逆

転現象をおこしたり沖縄でソメイヨシノが開花しなかったりすることの仮説を検証する記述型の難問です。ただし、設問中に「問題文を参考に」とあるように、しっかり問題文を読むことで、正答に気づけた受験生も少なからずいたでしょう。問5はヘチマ、ツバメ、カマキリの冬の様子について、およびヘチマの花についての基本問題で、確実に得点したいところですが、知識が曖昧になっている受験生もいたのではないのでしょうか。

③ 問1は上述の通り「並列」を問う語句問題で、漢字指定になっていました。問3は難易度の高い問題でしたが、①～③それぞれのつなぎ方を図示して電流の通り道をなぞりながら丁寧に考えれば解けるようになっていきます。

④ てこのつり合いの問題ですが、太さが一様な棒では棒の重さ（重心）が棒の中心にあることが分かっているれば、それほど難しくはなかったの

ではないでしょうか。

⑤ 中和反応における温度変化をグラフにする問題で、温度変化から完全中和する割合を推測する問題になっています。作図に慣れていない受験生もグラフ用紙に点を打つうちに、答えとなる直線が見えてきて楽しくなったかもしれません。実験1では完全中和の瞬間が表中にあるのですが、実験2ではそれがなく、グラフの延長線から推測する必要があります。勘違いした受験生も多かったと思われます。問7・問8の計算問題は難易度が高く、きちんと解答するには、難関校向けの学習を積み重ね、入試過去問をベースに計算問題の演習をしておく必要があります。

同校の合格点を取るためには、単純な知識の習得だけでは不可能です。ただ覚えるのではなく、理屈を理解しておくこと、それを応用できるように過去問や実戦問題で演習を重ねておくことが必要です。

社 会

① 《地理》 県ごとの地域的特色に関する総合問題 小問数 21

② 《歴史》 「世界遺産・新紙幣発行・修道創立 300 周年の略年表」にまつわる歴史的諸事項に関する総合問題 小問数 18

③ 《公民》 2024 年の時事問題を基にした総合問題 小問数 14

修道中学校の社会は試験時間 40 分・配点 100 点です。

問題構成は大問 3 つ。問題数は 50 問程度。今年の合格者平均点が 51 点。各分野の正答率は、地理 48%・歴史 53%・公民 54%です。直近 5 年で一番低くなりました。

① 県ごとの地域的特色に関する総合問題

大問 1 では、まず A～F の各文章から県を判断します。問 1・2 は県の位置を日本地図から選択する問題・基本語句の空欄補充問題です。文章中に各県の特徴を示す地名がちりばめられています。問 3 は平均気温

や降水量などを示した表から県庁所在地を答える問題です。日本の雨温図の読み取り方をきちんと理解していれば、それを表の数値から読み取って特徴を押さえることができます。問 6 の「からっ風の特徴」を指定語句や条件を踏まえたうえで答えさせる記述問題です。

各県の自然、産業、観光地、伝統工芸品、気温・降水量などの地域的特色と、日本の食糧・エネルギーについて幅広く問われています。

② 「世界遺産・新紙幣・修道創立 300 周年の略年表」にまつわる歴史的諸事項に関する総合問題

会話文中の下線部A～Cに関連する出題です。縄文時代から現代まで政治、出来事、社会の状況などにまつわる歴史的諸事項を問われています。時代ごとに特徴的な基本事項の理解、歴史事象についての説明する力が求められます。「秀吉が鉱山を直接支配することにしたねらい」「ひめゆり学徒隊」を答える問題や「江戸時代の町民身分の全人口における割合」を選択する問題は、答えにくかったかもしれません。

3 2024年の時事問題を基にした総合問題

国際紛争や国際連合をめぐる国際的時事的諸事項について理解しているか、また日本の少子高齢化・自然災害・為替の動きなど、幅広いテーマを通した現代社会についての理解度を問われています。時事問題としては一般常識の範囲内であり、問3b「国際協調」、h「円安」、問4「もし国際連合が存在していなかったら起こりうる問題について、自分

の考えを答える問題」は、大問1・2と解き進めていった場合に残り時間を考えると難易度が高くなったはずです。

【修道中学校「合格のカギ」】

① 日頃から問題を解く時間を意識して、時間配分を工夫する。

統計資料や図・グラフ・ビジュアル資料の読み取りを素早く行うためには、地図帳や資料集の活用が必須です。宿題や復習の際には、それらを活用して取り組みましょう。

② 時事に関する話題を日々の学習の中に取り入れる。

「日頃からニュースに触れる」「新聞記事を要約してノートに書く」など、より理解を深める学習を意識しましょう。

③ 社会科用語の漢字を正確に書く練習

「漢字で書く」練習は、受験勉強において大原則です。